

中央労福協ニュース No.94 NEWS LETTER

労働者福祉中央協議会（中央労福協）
 発行人 大塚 敏夫
 〒101-0052
 東京都千代田区神田小川町3-8 中北ビル5F
 Tel 03-3259-1287 URL <http://www.rofuku.net>

第2回幹事会を開催

2014年度政策・制度に関する要求と提言を討議、各党・省庁要請へ

～「政策・制度に関する要求と提言」と協同事業団体の利用促進に向けた産別訪問活動を確認～

中央労福協は5月9日、第2回幹事会を開催し、2014年度の「政策・制度に関する要求と提言」を決定するとともに、協同事業団体の利用促進に向けた産別訪問活動の取り組みを進めることを確認した。

第3回三役会に続いて開催された幹事会では、古賀会長が冒頭の挨拶に立ち、春季生活闘争の状況、労働分野の規制緩和の動きへの対応に触れ、直近に参加したOECDの関係会議での意見反映に関連して、「新自由主義の牽引役となったOECDも、格差拡大は危険な問題であり、トリクルダウンによる政策が破たんしたと認識を改め、包摂的成長の重要性を打ち出した。IMF議長も格差拡大が社会を弱くしていると述べている」と報告を兼ねて紹介し、我々もそれぞれの立場で運動展開をしていきたいと訴えた。

今年度の「政策・制度に関する要求と提言」は、中央労福協の活動課題や事業団体の重点要求を中心に、昨年に続き地方労福協から要望・提言を募り、政策委員会での討議を受けて取りまとめた。

要求内容は、はじめに連帯経済を促進する協同組合への支援、次に東日本大震災の被災者支援と復興・再生および災害対策、通年の要望事項などで構成している。

連帯経済を促進する協同組合の促進・支援に関しては、①協同組合の社会的価値を高める政策の検討、「協同組合憲章」制定など積極的な促進、政府



政策・制度に関する要求と提言などを討議した第2回幹事会

の調整窓口の設置、政府による支援策の検討のほか、②税制・会計制度における独自性・社会的役割の考慮、③生協法の改正、④地域の就労創出と住民自治を促進する「協同労働の協同組合」の法整備、⑤非営利・協同組織と自治体・行政との協働の関係の充実等を挙げた。

震災および災害対策関係では、①被災者の生活支援、②被災地における医療関係の支援、③住民主体による復興・再生の取り組みの制度化、④今後の災害対策の4本の要求と提言を掲げた。

通年の要望事項では、①格差・貧困社会の是正、セーフティネットの強化、②多重債務対策、③消費者政策の充実強化、④中小企業勤労者の福祉格差の是正、⑤勤労者の生活設計・保障への支援、⑥安心・信頼できる社会保障の構築、⑦くらしの安全・安心の確保——の8項目で、各協同事業団体の事業や活動に関わる重点要望を盛り込んだ。

要求の実現に向けて、具体的には政府の予算作成作業が開始される時期を前に、課題ごとに構成事業団体の代表とともに各党と厚労省はじめ関係省庁に個別要請行動を行う。さらに全国的に取り組むべき運動課題については、地域の実情に応じて政策化し、自治体への要請・働きかけを行うよう地方労福協に要請していく方向で検討している。



古賀会長

第85回メーデー中央大会開催

4月26日第85回メーデー中央大会が、代々木公園周辺で開催された。当日は、真夏を思わせる晴天に恵まれ約4万人が参加した。中央労福協と会員団体で、420名が参加した。

中央労福協や事業団体を代表して、中央労福協の山本幸司副会長、労金協会の石橋嘉人理事長、全労済の中世古廣司理事長、日本生協連の和田寿昭専務理事が、中央式典の来賓としてステージに登壇した。

中央式典では、主催者を代表して古賀伸明会長が「今年のメーデーは、労働者保護ルールの改悪にストップをかけるべく、「STOP THE 格差社会！暮らしの底上げ実現キャンペーン」の一環として位置づけ、全国で特別決議を採択することになっている。働く者の声をしっかり受けとめ、いま、政治がやるべきことは何か熟慮していただきたいとの考えから、広く各政党にお声がけさせていただいた。」と、本メーデー中央大会に込めた思いについて述べた。そのうえで、「連合は今年で結成25年を迎える。“すべての働く者の幸せの実現のために力を結集する”という結成の原点を忘れずに、積極的な運動を展開し、時代を切り拓いていこう。」と参加者に呼びかけた。

また来賓は、安倍晋三内閣総理大臣、田村憲久厚生労働大臣、前田信弘東京都副知事、海江田万里民主党代表、続いて日本維新の会、公明党、みんなの党、結いの党、生活の党、社会民主党、新



第85回メーデー会場
(左上は古賀会長、右下は安倍総理)

党大地、新党改革が挨拶を行い、続いて、尾上浩二 DPI 日本会議事務局長から“NGO・NPO連帯挨拶”、福田瑞代ひまわりユニオン執行委員長から“非正規労働者からの訴え”、八巻由美自治労福島県本部特別執行委員から“東日本大震災被災地からのアピール”が行われ、それぞれの立場から、団結と連帯を通じ「働くことを軸とする安心社会」を実現していく必要性を訴えた。最後に、神津実行委員会事務局長の提案による「メーデー宣言」ならびに、畠山薫連合中央執行委員の提案による「労働者保護ルールの改悪に断固反対する特別決議」を満場の拍手によって採択され、氏家実行委員長代行による「がんばろう三唱」にて終了した。

メーデー参加者に草花の種を配る事業団体の皆さん



一方、ユニオン・カーニバル会場では昨年引き続き、事業団体からの応援者等で、会員名が印刷された「草花の種」7,000袋をメーデー参加者へ配布活動を行った。また、7団体（中央労福協、労金協会、全労済、日生協、労協連、ワークネット、医療生協連）がテント出展し、各事業団体毎に参加者へのアピールを行い14時30分に閉幕した。

2014年度 I Y C 記念協同組合全国協議会総会開かれる

2012年国連国際協同組合を契機として結成された「I Y C 実行委員会」の後継組織として、2013年、当面2年間の期間限定つきで結成された「I Y C 記念協同組合全国会議」は5月20日、J A ビルにおいて本年度の総会を開催した。

この「全国協議会」は国際協同組合年に取り組まれた成果を継承し、協同組合の価値や社会的役割を広く国民に認知されるよう取り組むとともに、異種の協同組合が連携し、運動促進を目的にしている。「全国協議会」には、労金協会、全労済、日本生協連、医療福祉生協、労協連が参加するとともに、中央労福協も結成時に参加したものである。

総会は、主催者あいさつで始まり、「全国協議会」副会長である日本生協連の浅田会長が、「I Y C」をきっかけに全国115地域で協同組合間による連絡会、協議会ができたとして、組合間連携が拡大しているとの報告がされた。

本年度の活動計画案では、①協同組合法制度に関わる共通政策の検討・確立、②学習指導要領に協同組合教育を行う実施するための改訂等の取り組み、③協同労働の協同組合法整備に関する学習、④大学への寄付講座の設置などが盛り込まれ、全体の賛同を得た。また、本年の「国際協同組合デー記念中央集会」は全労済が事務局となり、7月8日全労済スペースゼロで開催されることも、合わせて確認された。

新年度の役員体制では、代表に萬歳JA会長、副代表に浅田生協連会長、幹事長に谷口JA常務、副幹事長に伊藤生協連渉外広報本部長が選任された。



「労働者自主福祉シンポジウム in かがわ」が盛大に開催！

香川労福協

《「連帯・共同でつくる安心・共生の福祉社会」をめざし共に主体を担おう》

4月5日、労金労組・労済労組・連合香川・香川労福協で実行委員会を結成し開催した「労働者自主福祉シンポジウム in かがわ」に予想を大きく超える210名の労働者が結集した。



「労働者自主福祉シンポジウム in かがわ」の会場

開会にあたって進藤実行委員長から「忘れがちになりやすいが、労働運動と労福（労金・全労済など）運動が共に進める主体。今シンポジウムをその出発点にしよう」とのあいさつがあった。

第1部は、中央労福協山本幸司副会長を講師に「持続可能な日本社会のために」～歴史に学び労働組合・協同組合が共同・連帯し社会的役割を發揮しよう～をテーマに基調講演を受けた。労金・労済がどのようにして生まれたのか知らない（伝えてもらっていない）役員・組合員から「大いに勉強になった」「労福運動を見直さねば」との感想も出されるなど意義ある講演であった。

第2部は、労福協がコーディネーターとなり労働金庫労組・労済労組・連合・運輸労連の代表者がパネラーとなりパネルディスカッションを行った。

主な発言内容は、以下の通り。

＊「労福団体と労組」が「業者とお客さん」関係になっている。（全パネラー共通）

＊労福（労金・労済）のためでなく組合員・自分

のための活動（運輸労連）

＊信頼関係をつくるにはもっと組合員と接しなければ。（全パネラー）

＊労組と共に活動できるという強みを生かすことが大切。（労済労組）

＊地域の労働運動の場に積極的に出ていかねばと思った。（労金労組・労済労組）

＊労組として、「経営」と「労福運動」の学習が必要。（労金労組・労済労組）

＊可処分所得を増やす面からも労福運動は重要。労組と労福は車の両輪の関係（連合）

＊地域労働運動への参加は同じ仲間として心から歓迎する。（連合）

＊推進委員会の在り方・運営方法・資料内容を改善する必要がある。（運輸労連）etc

最後に、主催者代表から「労働運動と労福運動の連携が今こそ求められている。このシンポジウムが終着点でなく新たなスタート点としよう」と重ねて呼びかけた。なお、後日実行委員会総括会を開き「この活動を継続する」ことを確認した。



第2部のパネルディスカッション

新潟県労福協

三条市勤労青少年ホーム「ソレイユ三条」が4月1日から新潟県労福協の指定管理に、開館時間延長など新体制でスタート

「ソレイユ三条」の管理事業は、労福協のめざす地域に根ざした活動として市民・勤労者福祉に大きく貢献することが期待できることから、県労福協と県央地区労福協が連携をとり三条市の公募に申請した。

指定管理となった新体制は、県労福協構成団体の県央地区労福協・佐藤事務局長が非常勤で館長を務め、事務局体制は、平成13年から21年まで、三条市青少年育成センターのセンター長を務めた佐藤隆司事務長と職員2名で運営し、今まで以上の利便性や

親しみやすさの向上を目指す。

佐藤館長は、勤労者青少年ホームの名のとおり、青年層が仕事を終わられてからの拠り所、集まって何かを始められる所として楽しく使ってもらえる場の提供をし、地域の拠り所としても利用されている施設でもあることから、今までの関係を続けながら、世代間交流の場としての提供もできればと抱負を述べている。

佐藤事務局長は、社会では人と人とのつながりが大切であり、講座やサークル活動などに利用してもらい、人と関わることの楽しさを感じ、さらに多くの人に利用してもらうために、ソレイユ三条を知ってもらうことや利用者アンケートなど、今の世代のニーズを聴きながら、民間であるが故の発想で取り組んでいきたいと語っている。

ソレイユ三条の外観



防災シリーズ

自治労会館の防災への取り組み

東日本大震災以降、当会館および自治労においても防災意識は高まり、防災への対策・対応をはかってきている。会館では、自治労本部など各テナントで構成される「共同防火防災管理協議会」を設置し、定期的な防災訓練の実施など「日頃からの備え」を踏まえながら、ここで防火・防災対策と関係する情報発信や発災時の行動認識の共有化を進めている。

また、地震や火事が発生した場合「一人ひとりがあわてず適切な行動をとることが大事」ということから、池袋防災館（東京消防庁）で、少人数の参加者に止まるが毎年定期的に疑似体験研修を実施している。疑似体験といいながらも、体験時の慌てぶりに各参加者自らが苦笑する。それぞれが忙しい中、防災館まで出かけての研修はついつい後回しになりがちだが、「いざというときに落ちついて行動できるよう」全ての者が疑似体験研修に参加することが課題となっている。

最近では、首都直下大地震発生 of 近未来予想がある中、5月5日早朝に自治労会館のある千代田区で震度5弱の地震（震源地は伊豆半島沖）が発生した。連休中ということもあり幸い

にも大事に至らなかったが、とりわけ震災に関する個人の関心度は高まっている。自治労本部は、日頃からの備えとして「防災緊急対策の手引き」の配布やヘルメットの配備、そして震度6以上の地震が起きた場合、役職員の家族まで含めた「安否確認」を行うエマージェンシーコールシステムを2013年3月1日から稼働させている。また、会館は東京都が推奨する3日分の食料備蓄をめざし新たに備蓄庫の建築（今年度中に完成）を予定している。防災対策としてまだまだ完璧とは言えないが、個々が発災時に正しい行動をとれることをめざし、何事にも決して慌てないよう、「日頃からの心構え」を基本とした防災意識を高めることと、さらなる防災対策に取り組みたい。



自治労会館（ホームページより転載）



西部労福協交流事業「中国地方の文化・歴史探訪」開催

西部労福協

～鳥取県の文化・歴史探訪、伯耆(ほうき)の国の歴史を巡る～

4回目となる西部労福協交流事業「中国地方の文化・歴史探訪」が4月18～19日の2日間、鳥取県米子市と境港市を実施場所に、中国・四国地区から総勢81名が参加して開催された。

初日は、まず、大山寺が三千石の寺領を有し42支院を統轄していた江戸時代に建てられた「大山寺塔頭（たちゅう）圓流院」と国の重要文化財である「阿弥陀堂」を二手に分かれて拝観。

圓流院は、現在の大山寺支院の10ヶ院のひとつで、天井には水木しげる（ゲゲゲの鬼太郎の作者）が米寿を記念し108態妖怪天井画が掲げてあり、参加者一同本堂で大の字になり開運の妖気シャワーを浴びパワーをもらった。

阿弥陀堂は、大山寺に現存する寺院の中では最古

の建築物で、室町末期の天文21年（1552年）に再建されたといわれる建造物。本尊は木造阿弥陀如来で、両脇には観音と勢至の両菩薩も安置され、建物、仏像とも国の重要文化財となっている。

その後、国の重要文化財である大神山神社へと続く約700mにわたって自然石を敷きつめた、日本一長い石畳の参道を歩き、杉木立の両側の僧坊跡や、江戸中期の「吉持地蔵」など、往時を偲びながら散策した。

2日目は、境港市へ移動し「水木しげるロード」

を散策した。妖怪漫画のパイオニア「ゲゲゲの鬼太郎」の作者、水木しげるの出身地で境港駅前から通称「水木しげるロード」と呼ばれる約800mの沿道には139体もの妖怪ブロンズ像が鎮座している。気になる妖怪に触れ開運や効能を願いながらゆったりと散策し、2日間にわたる鳥取県の文化・歴史探訪を終えた。

交流事業に参加された皆さん

